

福岡県飯塚市幸袋 築 120 年古民家『聴福庵』 2018 年のあゆみ①

第 71 号 2018 年 7 月 9 日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

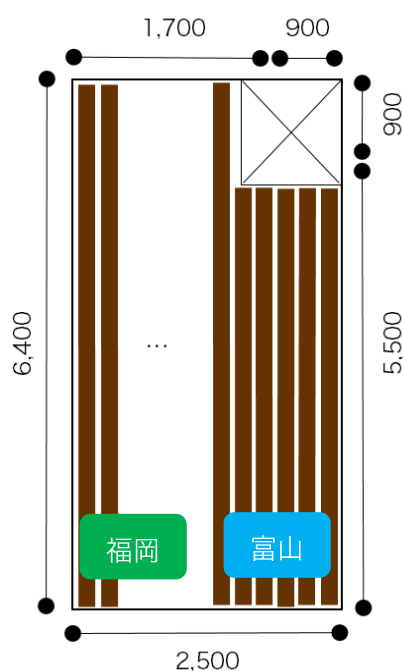
「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガヤ 奥山卓矢

煤竹天井

2017 年 6 月 22 日に始まった煤竹天井プロジェクトですが、
約 1 年掛かりで無事天井全てに煤竹を敷き詰めることができました。

富山にある築 200 年の古民家や、福岡県柳川にある古民家からも
煤竹を譲り受け、『聴福庵』の厨房の天井に煤竹を敷き詰めました。



右図は煤竹を敷き詰めた天井の
広さを表しています。

右側は築 200 年の古民家から
譲って頂いた富山の煤竹。

左側は福岡県柳川の古民家から、
5m 程の長い煤竹を敷き詰め、
同じ煤竹でも見比べると模様も
異なります。

また、本誌第 65 号で取りあげた
芳野旅館の女将の話によると、
煤竹は竹が成長する過程で、
小さいうちに竹に細工を入れ節の
位置や模様の付き方を考えて育て
たそうです。茅葺屋根を解体する

時に、持ち手のいいものは杖にしたり、窓の格子戸として活用し、
最初に竹に細工を入れた人は、その後の光景を見ることはありません
が後世のために昔の人は手を加えていたと女将は言います。
先人の想いを引き継ぎ、厨房に煤竹が敷き詰められました。

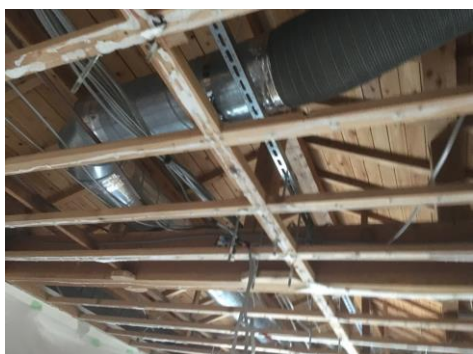




①2016年6月頃 何もない厨房



②2017年6月22日
天井の石膏ボードを取り壊し開始



③石膏ボードを取り外し天井が丸見え



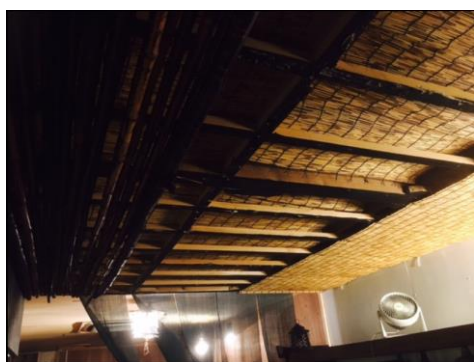
④石膏ボードの残骸



⑤富山県にある築200年の古民家
から煤竹を譲り受けました



⑥煤竹の水拭き&蜜蝋磨き



⑦2017年7月19日
天井に煤竹を敷き詰める作業開始



⑧天井作業は足腰に負担が掛かります



⑨2018年7月3日
残り1列に奮闘



⑩隙間に手を入れて隣の煤竹と紐で
1本1本結んでいきます



⑪2018年7月5日
煤竹敷き詰め作業完了



見上げると青空が！

聴福庵を通して感じること

約1年掛かり、まずはホッとしています。

この1年の間に井戸を掘ったり、お風呂ができたり、様々な所が進む中でなかなか思うように進んでいなかった煤竹天井。

そもそも、煤竹の入手が難しかったりということもありましたが、天井作業ということもあり足腰や首、背中など全身に掛かる体の負担もなかなかのものでした。

この煤竹、水拭きをするだけでも竹の模様が現れ美しいのですが、天井に敷き詰められるとまた趣のある雰囲気の様変わります。

以前の天井は石膏ボードが使われ、無機質な雰囲気でしたが、元の姿を思い出せないくらい、今は煤竹の一本一本が天井を埋め尽くしています。

磨くほど輝きを放つ竹を眺めていると、「本当に200年前のもの？」と自分の目を疑いたくなる、そんなことを1年前思いました。

そして今は、時間が生み出す美しさや日本人が大切に守って来た暮らしの智慧にもまた美しさを感じ、ひと際輝いて見えます。

煤で手を黒くしながらの作業でしたが、心は晴れやかです。天井作業をしていると目線は常に上を向き、目線を高いことで気づくこともたくさんあります。

子どもたちは、大人に比べると見上げていることが多いから、たくさんものを発見しているのかもしれない、そんなことも煤竹天井を通して思いました。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)

●過去のバックナンバー

第68号

ドイツ環境視察ツアー2018①

第69号

ドイツ環境視察ツアー2018②

第70号

昔の田んぼーカグヤ田

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2 号館 10 階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。